



週間情報



No.0740

発行日 令和7年10月21日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

両会の動き

◆ 「消防実務講習会（警防）」を開催

一般財団法人全国消防協会東近畿地区支部

一般財団法人全国消防協会東近畿地区支部では、令和7年10月2日（木）、石川県金沢市において、「消防実務講習会（警防）」を開催しました。

講習会の冒頭では、金沢市消防局の北島将平次長よりごあいさつをいただきました。

続いて行われた第1講義では、熊本市消防局西消防署警防課の吉本直樹課長より、「熊本地震について」と題し、実際の災害対応の経験をもとに、現場での教訓や今後の課題について貴重なお話を伺いました。

第2講義では、国立研究開発法人防災科学技術研究所兼先進防災技術連携研究センターの伊勢正研究総括より、「災害現場のデジタル化加速に向けたS I Pの取り組み～現場最前線のDXによる実動機関の連携強化～」と題し、最新の技術動向や現場でのデジタル化推進の取り組みについて詳しくご説明いただきました。

今後も警防技術のさらなる向上を目指し、さまざまな取り組みを続けてまいります。



【講習会の様子】

◆ 消防実務講習会（警防・救急）を開催

一般財団法人全国消防協会中国地区支部

一般財団法人全国消防協会中国地区支部では、令和7年10月2日（木）、3日（金）の2日間、山口県下松市において、「消防実務講習会（警防・救急）」を開催しました。

初日は、開催地事務局（下松市消防本部広中消防長）のあいさつの後、医療法人神徳会三田尻病院院長豊田秀二氏による「災害医療における消防との連携について」のご講義、山口大学名誉教授三浦房紀氏による「南海トラフ巨大地震に備える～死傷者ゼロを目指して～」について、ご講義いただきました。

2日目は、まちのLifeガード舎代表川北真三郎氏による「救助人材育成ガイドラインを参考とした部下の育成について」のご講義、広島市消防航空隊隊長畑口直孝氏による「消防ヘリコプターの活用について」のご講義、下松商工会議所専務理事安野政行氏および事務局長原田裕章氏による「地域と共に、みんなでつくる～感動地くだまつの実現～」について、ご講義いただきました。

今後も、警防技術の向上のため、さまざまな取り組みを行ってまいります。



【講習会の様子】

消防本部の動き

行事

◆ 特別救助隊の発隊式を実施

笠岡地区消防組合消防本部（岡山）

笠岡地区消防組合消防本部では、令和7年10月1日（水）、鴨方消防署特別救助隊の発隊式を実施しました。

この特別救助隊は、山陽本線と山陽新幹線、国道2号線、山陽自動車道2箇所のインターチェンジを有する当消防本部において、複雑かつ多様化する活動困難な災害に対し、より迅速に対応することを目的として、新たに発隊したものです。

当日は、特別救助隊員に対し、笠岡市長、副市長、浅口市長、里庄町長から特別救助隊章が授与された後、隊長が「不断の努力と絶え間ない研磨を重ね、住民の安心の盾となれるよう、授与された隊章に誓います。」と決意を表明しました。

今後も、消防本部一丸となり、地域の安全、安心を守ってまいります。



【発隊式後の記念撮影】



【新たに作成された個人装備品】

訓練

◆ 解体予定の建物を活用した訓練の実施

太田市消防本部（群馬）

太田市消防本部では、令和7年6月24日（火）から9月26日（金）の期間中、解体予定の建物を活用した訓練を実施しました。

期間中は、火災想定訓練をはじめ、ロープレスキュー、強制進入、ブリーチングの特別訓練を実施し、火災想定訓練では、濃煙下での進入や要救助者の検索・救出活動を行い、迅速かつ安全な活動を確認しました。

また、ロープレスキューでは、低所からの救出訓練を行ったほか、強制進入とブリーチング訓練では、閉鎖空間への進入や壁・扉の破壊活動を実施し、資機材操作と連携方法を習熟することができました。

実建物を活用した訓練は臨場感が高く、この訓練を通じて、特に経験が浅い職員にとって貴重な経験となり、技能および判断力の向上を図ることができました。

今後も、多様な訓練を重ね、消防力と人材育成の強化に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 海上保安庁および3消防機関合同潜水訓練を実施

柏崎市消防本部（新潟）

柏崎市消防本部では、令和7年9月26日（金）、海上保安庁上越海上保安署、上越地域消防局、糸魚川市消防本部と合同で潜水訓練を実施しました。

この訓練は、潜水技術と知識を共有するとともに、関係機関との連携強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、各関係機関の潜水士23人が参加し、3つの班に分かれて水中捜索訓練や想定訓練を実施し、現場活動における共通認識を深めることができ、大変有意義な訓練となりました。

今後も、市民の安全・安心の確保のため、関係機関との連携強化を図るとともに、技術の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 「警防技術錬成会」を実施

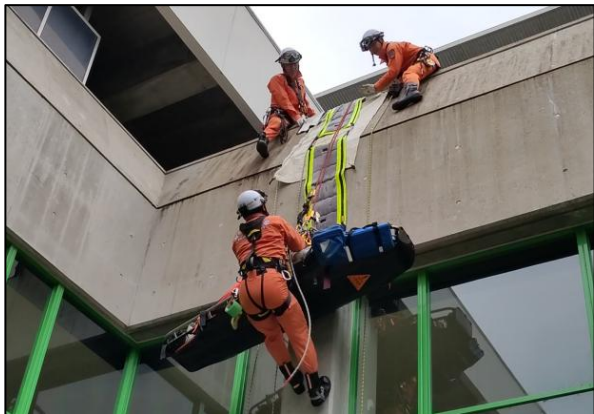
総社市消防本部（岡山）

総社市消防本部では、令和7年9月27日（土）、28日（日）の2日間、解体予定の旧市役所庁舎を活用した実践的な「警防技術錬成会」を実施しました。

この錬成会は、警防活動に必要な知識・技術の習熟と現場対応能力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、高所と低所からの救急救助訓練、火災時における強制進入訓練、検索訓練を実施し、通常の訓練では得られない貴重な経験となりました。

今後も、各種災害への対応と市民の安全・安心の確保のため、実践的な訓練を継続し、消防力の強化に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 地元消防団と建物火災を想定した合同訓練を実施

相模原市消防局（神奈川）

相模原市消防局では、令和7年9月28日（日）、下溝防災消防訓練場において、相模原市消防団北方面隊と、建物火災を想定した合同訓練を実施しました。

この訓練は、建物火災における屋外からの効果的な注水要領を習熟することを目的として実施したものです。

当日は、座学において、基礎知識と活動内容について説明した後に、模擬家屋などを活用しながら、天井反射注水、窓枠反射注水、屋内の状況確認、予備注水、水幕反射注水、落下注水、消火栓取り扱い要領を3つのサイトに分けて実施し、実践的な放水訓練となりました。

この訓練を通じて、建物への放水経験の少ない団員が多い同消防団にとって、「筒先の技術」を習得する絶好の機会となったほか、指導にあたった職員にとっても、指導方法や安全管理上の課題など、多くの気づきを得られる大変有意義な訓練となりました。

今後も、消防団とさまざまな訓練を通じ、連携を強化してまいります。



【座学の様子】



【放水訓練の様子】

◆ 救急総合想定訓練を実施

埼玉県中央広域消防本部（埼玉）

埼玉県中央広域消防本部では、令和7年9月29日（月）から10月2日（木）までの4日間、救急総合想定訓練を実施しました。

この訓練は、救急隊が日頃の訓練で深めた知識・技術の実践とその活動内容を検討することで、現場対応能力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、20隊の救急隊が参加し、「心肺停止」で統一された訓練想定において、各隊が事前に設定した目標を重点に、訓練を実施しました。

また、指導救命士が中心となり、訓練中に撮影した映像を用いて、活動隊や見学者との意見交換を行ったことで、多様な視点かつ客観的に活動隊を考察することができ、有意義な意見交換となりました。

今後も訓練を継続し、隊員間の連携強化を図るとともに、住民の安全・安心の確保に努めてまいります。



【訓練の様子】



【意見交換の様子】

◆ 3機関合同で救急訓練を実施

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部（静岡）

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部では、令和7年9月29日（月）、基幹病院である中東遠総合医療センターのドクターカーおよび聖隷三方原病院の静岡県西部ドクターヘリと合同で、救急訓練を実施しました。

当日は、「多数の傷病者が発生した。」との想定で、現場活動から医師搬入までの一連の流れで訓練を実施し、それぞれの役割の確認と共有を図り、関係機関との連携強化につなげることができました。

この訓練を通じて、地域の救急医療体制のさらなる充実を図れたほか、住民の安全・安心の確保に向けて大きな一歩を踏み出すことができました。

大規模災害発生時において、関係機関と連携した活動を迅速に行うため、今後も訓練を継続し、現場対応能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 西三河地区合同訓練を実施

岡崎市消防本部（愛知）

岡崎市消防本部では、令和7年9月29日（月）、西三河地区の消防本部（局）と合同で救助訓練を実施しました。

この訓練は、大規模災害発生時における「西三河地域消防相互応援協定」に基づく、応援派遣時の相互協力体制の強化を図るとともに、消防活動能力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、「岡崎市において大規模な土砂災害が発生した。」との想定で、可能な限り実災害に近い環境下で訓練を行い、応援要請と部隊集結における連携活動を再確認することができ、非常に有意義な訓練となりました。

今後も、近隣消防本部に応援要請を行うような大規模災害発生時において、冷静かつ迅速に対応できるよう、PDCAサイクルを意識した継続的な訓練に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 「緊急消防援助隊兵庫県大隊（阪神ブロック）後方支援部隊集結訓練」を実施

西宮市消防局（兵庫）

西宮市消防局では、令和7年9月29日（月）、西宮市消防訓練施設において、「緊急消防援助隊兵庫県大隊（阪神ブロック）後方支援部隊集結訓練」を実施しました。

この訓練は、平成23年東日本大震災および平成28年熊本地震への緊急消防援助隊派遣を契機に、阪神ブロックから派遣される活動隊員に対し、より有効な後方支援活動を行うことを目的として実施したものです。

当日は、部隊集結から宿営場所におけるテント設営までの一連の流れと炊き出し訓練を実施しました。

今後も、令和6年能登半島地震での経験も踏まえ、阪神ブロック一体となった迅速な後方支援体制の確立に努めてまいります。



【宿営場所のテント設営の様子】



【講評の様子】

◆ 「徳島県広域消防相互応援協定第1ブロック内広域応援訓練」を実施

小松島市消防本部（徳島）

小松島市消防本部では、令和7年10月1日（水）、「徳島県広域消防相互応援協定第1ブロック内広域応援訓練」を実施しました。

この訓練は、応援要請時の要領を再確認するとともに、各種災害に対する意思疎通と技術の共有を図り、災害発生時の連携強化につなげることを目的として実施したものです。

当日は、「車両が海に転落した。」との想定で、水難救助隊による水中検索訓練を実施したほか、応援要請に基づき出動した近隣消防本部と連携した救出訓練などを行い、大変有意義な訓練となりました。

今後も、近隣消防本部との連携強化を図るとともに、災害対応能力のさらなる向上に努めてまいります。



【訓練の様子】



【講評の様子】

◆ 「山林火災対応合同訓練」を実施

多治見市消防本部（岐阜）

多治見市消防本部では、令和7年10月3日（金）、多治見市笠原町かさほら潮見の森において、隣接する消防本部（土岐市消防本部、瀬戸市消防本部）および岐阜県防災航空隊と合同で、「山林火災対応合同訓練」を実施しました。

この訓練は、2006年に隣接する3消防本部間で締結された協定に基づき、定期的に実施しているものです。

当日は、消防職員約50人と消防車両5台が参加し、「山林内において複数箇所で大規模な火災が発生した。」との想定で、各機関と連携しながら訓練を実施しました。



【訓練の様子】



【講評の様子】

◆ 連携活動訓練を実施

長野市消防局（長野）

長野市消防局では、令和7年10月4日（土）、長野県消防学校の火災体験棟において、長野市消防団と合同で、連携活動訓練を実施しました。

当日は、耐火建物火災を想定した訓練をブラインド形式で実施し、濃煙熱気的环境下で当消防局の部隊は、要救助者の救出を最優先した活動を行い、同消防団は、消火活動に合わせた支援活動と指揮隊との相互の情報共有を図り、火災鎮圧までの連携を重点に活動しました。

大規模・多発災害時は、隣接署所や隣接消防団との緊密な連携が求められることから、今後も、訓練を継続し、今回の訓練で得た反省点を活かし、実災害における効果的な連携活動に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 防災航空隊と山岳救助合同訓練を実施

かすみがうら市消防本部（茨城）

かすみがうら市消防本部では、令和7年10月6日（月）、7日（火）の2日間、茨城県防災航空隊と、山岳救助合同訓練を実施しました。

この訓練は、今年度、「山岳救助活動要領」を新たに策定し、運用を開始したことから、山岳事故発生時の救助活動における同航空隊との連携強化と技術の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、実際の災害現場を想定した訓練において、要救助者の捜索から救出・搬送まで一連の活動を航空隊と再確認し、情報伝達や安全管理体制の強化を図ることができました。

この訓練を通じて、関係機関と連携することの重要性を再認識することができ、隊員一人一人の技術と判断力の向上につながる有意義な訓練となりました。

今後も、地域住民の安全・安心を守るため、実効性のある訓練を継続してまいります。



【訓練の様子】

◆ 自然災害対応訓練を実施

西尾市消防本部（愛知）

西尾市消防本部では、令和7年10月6日（月）から9日（木）までの4日間、「救助訓練場所の提供に関する協定」を締結している長坂建設興業株式会社にご協力いただき、自然災害対応訓練を実施しました。

この訓練は、近年、ますます激甚化・頻発化する自然災害に的確に対応するため、コンクリートの破壊要領や重量物の固定要領を習得することを目的として実施したものです。

当日は、瓦礫現場の想定で瓦礫救助の過酷さを体験しながら実災害の対応手順を再確認し、瓦礫救助に係る知識と技術を習得することができ、大変有意義な訓練となりました。

今後も、実践的な訓練を継続し、市民の安全・安心を守るという使命を胸に、万全の態勢を整えとともに、災害対応能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

研 修

◆ 令和7年度消防長特別研修「警察が行う火災捜査」を実施

上尾市消防本部（埼玉）

上尾市消防本部では、令和7年10月3日（金）、令和7年度消防長特別研修「警察が行う火災捜査」を実施しました。

この研修は、火災調査について警察と協力体制の強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、埼玉県警察本部刑事部捜査第一課の職員を講師としてお招きし、「火災事案の困難性」、「火災事件捜査における消防機関との協力」、「放火事件で警察が行う捜査」などについて、実体験を含めながらご講演いただき、大変有意義な研修となりました。

今後も、相互の立場を理解し合いながら、火災調査に取り組んでまいります。



【研修の様子】

◆ 「消防実務研修会」を開催

静岡県東部消防長会（静岡）

静岡県東部消防長会（下田消防本部、駿東伊豆消防本部、熱海市消防本部、富士山南東消防本部、御殿場市・小山町広域行政組合消防本部、富士市消防本部、富士宮市消防本部）では、令和7年10月3日（金）、「消防実務研修会」を開催しました。

この研修会は、各消防本部における民間連携の強化と戦略的広報のスキルアップを図ることを目的に開催したものです。

当日は、52人が参加し、横浜市消防局から御所脇佑介氏を講師としてお招きし、「共創・広報」をテーマとしてご講義いただき、民間事業者との連携、消防のブランディング向上、戦略的な広報活動に関する調整や進め方などについて、具体的な手法を学ぶことができました。

今後も、今回の研修を機に、各消防本部との共創・広報活動の確立につなげてまいります。



【研修会の様子】

◆ 「コミュニケーション研修会」を開催

名張市消防本部（三重）

名張市消防本部では、令和7年10月6日（月）、「コミュニケーション研修会」を開催しました。

当日は、一般財団法人日本ペップトーク普及協会認定講師でもある津市消防本部消防総務課の村田圭氏を講師としてお招きし、心理的安全性やペップトークをテーマとして、前向きな声かけや相手を尊重する関わり方の大切さについてご講義いただき、日頃のコミュニケーションを見つめ直すきっかけとなりました。

心理的安全性は、「特別な技術」ではなく、日々の一言・反応・態度の積み重ねで作られるものであります。

今後も、今回の研修をきっかけに、職員一人一人がパフォーマンスを発揮できる職場環境づくりに取り組んでまいります。



【研修会の様子】

◆ 配電線設備の基礎研修を実施

茨城西南広域消防本部（茨城）

茨城西南広域消防本部では、令和7年10月8日（水）、特別救助隊員の教養訓練の一環として、株式会社関電工茨城支店水戸営業所にご協力いただき、配電線設備の基礎研修を実施しました。

この研修は、近年多発する風水害により発生している電柱の倒壊や電線切断事故などに対して、初動時における安全活動と電気事業所との連携強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、活動時における二次災害防止に必要な基礎教養を中心に、感電事故の事例、絶縁保護具の点検方法、接地線の役割などについて、講師の見識のもとご講義いただき、安全意識の向上を図ることができ、大変有意義な研修となりました。

今後も、電気、ガス、水道のライフラインなどが起因する災害事案に対応すべく、専門分野の知識を習熟するとともに、安全で迅速な活動に努めてまいります。



【研修の様子】

その他の

◆ 消防協力者に消防長から感謝状を贈呈

岸和田市消防本部（大阪）

岸和田市消防本部では、令和7年10月3日（金）、消防協力者6人と消防協力者団体（株式会社興徳クリーナー）に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年8月21日（木）に発生した枯草などが焼損する火災事案において、同社の従業員である消防協力者6人が協力し、迅速な119番通報、消火器、水道ホースによる初期消火活動を行い、隣接する建物への延焼を阻止し、被害の拡大防止に貢献したものです。

消防協力者6人が速やかな消火活動を行えたことは、同社が日頃から自主防災力の向上を図ることに積極的に取り組んだ成果であり、他の事業所の模範であることから、その功績をたたえ、感謝の意を表しました。



【感謝状贈呈式後の記念撮影】

◆ 第26回小山市消防職員意見発表会を開催

小山市消防本部（栃木）

小山市消防本部では、令和7年9月25日（木）、第26回小山市消防職員意見発表会を開催しました。

この発表会は、日々の業務に対する提言や取り組むべき課題について発表し、消防業務の諸問題に関する一層の知識の研さんや意識の高揚を図ることを目的として開催したものです。

当日は、各署所から選抜された20人の職員が出場し、多彩なテーマで熱意あふれる発表と今後の消防業務に資する優れた提案が多数示され、会場は活気に包まれました。

本発表会を通じて、職員一人一人の資質の向上や組織の活性化につながる有意義な機会となりました。



【最優秀賞 竹内司令補】



【記念撮影】

◆ 「ざま消防救急フェア」を開催

座間市消防本部（神奈川）

座間市消防本部では、令和7年9月27日（土）、イオンモール座間において、消防団と合同で、「ざま消防救急フェア」を開催しました。

当日は、放水体験、子ども用防火服・救急服の着用体験、AEDを活用した応急手当体験、初期消火体験、はしご車のバスケット搭乗体験などを実施したほか、救急自動車など各種消防車両を展示しました。

また、各コーナーにおいて、座間市公式キャラクターである「ざまりん」のスタンプを集め、啓発品と交換できるスタンプラリーを行ったほか、屋内会場に設置されたデジタルサイネージ（電子看板）を活用し、火災予防・応急手当・消防団について紹介しました。



【ざまりん、職員、子供たちとの交流の様子】



【消防救急フェアの様子】

◆ 「救急フェア i n ららぽーと和泉」を実施

和泉市消防本部（大阪）

和泉市消防本部では、令和7年9月27日（土）、ららぽーと和泉にご協力いただき、「救急フェア i n ららぽーと和泉」を開催しました。

このイベントは、地域住民に対して、救急車の適正利用や命の大切さを理解していただくとともに、救急医療の重要性や適切な行動を促すことで、地域全体の防災意識を高めることを目的として実施したものです。

当日は、多くの方が参加し、救急クイズ、救急活動の展示、ワークショップなどの各ブースで、楽しみながらも救急医療への理解を深めていただきました。

今後も、地域住民の方に対する啓発活動を実施し、市民サービスの向上に努めてまいります。



【イベントの様子】



【実施内容】

◆ 高性能機体の新型ドローンを導入し運用を開始

釧路北部消防事務組合消防本部（北海道）

釧路北部消防事務組合消防本部では、令和7年10月1日（水）、D J I 社製の高性能機体の新型ドローン「M a t r i c e 3 0 T」を導入し、運用を開始しました。

このドローンは、当消防本部のドローン隊が発足した令和3年4月から活用してきた、同社の「M a v i c」シリーズの機体が老朽化したことに伴い更新したものです。

新たに導入した機体は、従来機に比べ、耐風性能、飛行時間、防塵防水性能が大幅に向上したほか、望遠カメラと赤外線カメラを備え、夜間や煙の多い現場においても鮮明な映像を取得できるようになりました。

また、2台の送信機からの操作に対応しており、機体操縦者とカメラ操作担当者が分業できることで操作性と安全性が飛躍的に向上し、災害現場の状況把握、行方不明者の搜索活動、迅速かつ安全な運用が期待できます。

今後も、導入した高性能機体の性能を活かし、多種多様な災害現場で活躍できるよう訓練に励んでまいります。



【新型ドローンの操作訓練の様子】



【導入された新機体】

◆ 「やくも防災フェスタ2025」に参加

八雲町消防本部（北海道）

八雲町消防本部では、令和7年10月4日（土）、噴火湾パノラマパークにおいて、八雲町開町20周年記念事業の一環として開催された「やくも防災フェスタ2025」に参加しました。

このイベントは、来場者が楽しみながら防災に関心を持つことができる体験型イベントやブース展示を通じて、防災意識の向上を図るとともに、関係機関との顔の見える関係を構築し、地域全体の防災力の向上につなげることを目的として実施したものです。

当日は、官公庁や民間企業など19団体が参加し、当消防本部では、消防車の展示、装備の説明、マイナ救急に関するチラシの配布を行ったほか、消防団員加入促進ブースを設け、消防団員の募集も実施しました。

今後も、防災イベントなどを活用し、地域の防災力向上に努めてまいります。



【イベントの様子】

◆ 「えにわ・消防祭2025」を開催

恵庭市消防本部（北海道）

恵庭市消防本部では、令和7年10月4日（土）、庁舎敷地内において、明治安田生命保険相互会社、恵庭市幼少年防火協議会、学生サポーターにご協力いただき、「えにわ・消防祭2025」を開催しました。

このイベントは、市民の皆さまに笑顔をお届けするとともに、消防士体験を通じて消防行政への理解と親近感を醸成し、地域の活性化と安全で安心して暮らせるまちづくりを推進することを目的として開催し、今年で2回目となりました。

当日は、親子連れの市民が来場し、消防車両展示や防火PRを行ったほか、体験型イベントとして、はしご車搭乗体験、消防車両からの放水体験、ARゴーグルによる消火体験、煙体験ハウスなどのコーナーを設け、笑顔あふれるイベントとなりました。



【イベント会場の様子】



【放水体験の様子】

◆ 仮想空間である「メタバースとよた」において「足助消防署ふれあい広場 i n メタバースとよた」を開催

豊田市消防本部（愛知）

豊田市消防本部では、令和7年10月4日（土）、メタバースプラットフォーム「cluster」に豊田市が構築した仮想空間である「メタバースとよた」で、「足助消防署ふれあい広場 i n メタバースとよた」を開催しました。

これは、国から重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「足助の町並み」を火災から守るため、防火意識と郷土愛を醸成することを目的として開催したものです。

また、育児や入院などで現実でのイベントに参加できない住民にも防火啓発を図ることが必要であることから、スマートフォンやパソコンから参加できる仮想空間で実施しました。

当日は、延べ222人が参加したほか、管内にあるJA愛知厚生連足助病院（サテライト会場）から7人が参加し、消防士出動動画の放映や〇×クイズを行い、楽しみながら消防への理解を深めていただきました。

今後も、足助地域の防火意識と郷土愛の醸成のため、啓発活動に努めてまいります。



【仮想空間「メタバースとよた」の様子】



【サテライト会場の様子】

◆ 「第21回消防フェスティバル」を開催！！

喜多方地方広域市町村圏組合消防本部（福島）

喜多方地方広域市町村圏組合消防本部では、令和7年10月5日（日）、「第21回消防フェスティバル」を開催しました。

当日は、約1500人が来場し、オープニングセレモニーにおいて、喜多方市立第二こども園幼年消防クラブによる防火パレードと当消防本部救助隊による訓練披露を行ったほか、ミニ消防車・救急車の乗車体験、斜め降下体験、放水体験、水消火器体験などのコーナーを設け、さまざまな体験イベントを実施しました。

このイベントを通じて、来場された子どもたちや地域住民の方々に、消防を身近に感じていただきながら、「火災予防の啓発」と「防災意識の高揚」を図ることができました。

今後も、関係団体との連携強化を図るとともに、防火・防災意識の普及啓発に努めてまいります。



【防火パレードの様子】



【消防体験の様子】

◆ 「令和7年度小平市総合防災訓練」を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁小平消防署では、令和7年10月5日（日）、管内にある小平市立上宿小学校において、「令和7年度小平市総合防災訓練」を実施しました。

当日は、市役所、警察、自衛隊、消防団、医師会などの関係団体が多数参加し、防災訓練では、市民の方々に対して、AR機器を活用した訓練や応急救護訓練を行ったほか、煙体験ハウスなどを設け、防火防災の意識を高めることができました。

また、消防演習では、「地震が発生した。」との想定で、消防団、災害時支援ボランティア、小平防火女性の会、医師会と連携しながら、はしご車による救出や一斉放水などを実施し、非常に意義のある訓練となりました。



【消防演習の様子】



【一斉放水の様子】

消防学校からの便り

◆ 第39期救助科「校外研修Ⅲ（土砂災害想定訓練）」を実施

埼玉県消防学校（埼玉）

埼玉県消防学校では、令和7年9月30日（火）、10月1日（水）の2日間、埼玉県鴻巣市にある株式会社河野組の資材置き場において、第39期救助科「校外研修Ⅲ（土砂災害想定訓練）」を実施しました。

この研修は、自然災害への対応力の向上を図ることを目的として、座学と実技を組み合わせ実施したものです。

当日は、土砂災害現場や崩落危険のある場所を再現し、実災害を想定した高度な環境下において、要救助者の救出対応訓練を実施し、災害現場における即応力と安全管理能力を高めることができ、同救助科の学生にとって貴重な経験となりました。

同消防学校救助科では、大規模災害現場において住民の生命・身体・財産を守るための準備を整えており、今後も、より安全かつ迅速な救助活動の実現を目指してまいります。



【訓練の様子】

報道発表

◆ 「消防大学校における教育訓練等に関する検討会」の開催

(令和7年10月10日、消防庁消防大学校)

消防を取り巻く環境の変化等を踏まえ、これからの消防大学校における教育訓練等のあり方を検討することを目的として、「消防大学校における教育訓練等に関する検討会」を開催することとしましたのでお知らせします。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/251010_soumu_01.pdf) に掲載されています。

【連絡先】

消防庁消防大学校庶務課
TEL 0422-46-1711

◆ 第45回危険業務従事者叙勲（消防関係）

(令和7年10月11日、消防庁)

第45回危険業務従事者叙勲（消防関係）受章者は、650名で勲章別内訳は次のとおりです。

瑞宝双光章	315名
瑞宝単光章	335名
計	650名

(受章者名等は、別紙の受章者名簿に記載されています。)

発令年月日 令和7年11月3日（月）

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/251011_soumu_3.pdf) に掲載されています。

連絡先

消防庁総務課

渡部係長・小沼事務官

電話 03-5253-7521（直通）

E-mail : fdma-soumukahyoushou_atmark_soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示
しております。送信の際には、「@」に変更してくだ
さい。

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 吉田

原稿データは、weekly@fcj.gr.jpに送信願います。